

特別栽培農産物に係る化学合成農薬の使用回数及び  
化学肥料による窒素成分施用量の基準について

平成16年2月2日制定  
 平成16年7月8日一部改正  
 平成17年6月21日一部改正  
 平成17年9月30日一部改正  
 平成19年3月30日一部改正  
 平成20年1月17日一部改正  
 平成21年12月22日一部改正  
 平成22年3月29日一部改正  
 平成25年7月9日一部改正  
 平成26年5月9日一部改正  
 平成27年3月24日一部改正  
 平成28年3月29日一部改正  
 平成29年3月8日一部改正  
 平成29年7月10日一部改正  
 平成31年3月26日一部改正  
 令和2年3月18日一部改正  
 令和3年3月26日一部改正  
 令和4年3月30日一部改正  
 令和5年8月29日一部改正

特別栽培農産物に係る表示ガイドライン（平成19年3月23日付け18消安第14413号総合食料局長、生産局長、消費安全局長通知）第4の2の（5）に規定する作型別の化学合成農薬の慣行的使用回数及び化学肥料による窒素成分の慣行的施用量等については、下記のとおりとする。

なお、適正な堆肥の施用による土づくりを推進するため、「家畜ふん堆肥の施用量の目安」を添付する。

記

単位：農薬（回）、化学肥料（kg/10a）

作目	作型	は種時期	農薬使用回数(注1)		化学肥料施用量(注2)	
			慣行的 使用回数	5割減 使用回数	慣行的 施用量	5割減 施用量
水稻	早期栽培	(移植期)4中-5上 <sup>(注3)</sup>	14	7	6	3
	早植栽培	(〃)5上-5下 <sup>(注3)</sup>	12	6	9.8	4.9
	普通栽培	(〃)6上~	12	6	9.3	4.7
	湛水直播栽培		14	7	7.3	3.6
	乾田直播栽培		14	7	9	4.5
	移植栽培(多収性品種)	(注4)	13	6	13.0	6.5
小麦			6	3	11.6	5.8
二条大麦			6	3	11.8	5.9
六条大麦			5	2	9	4.5
大豆			8	4	3.2	1.6
そば			1	0	2	1

単位：農薬(回)、化学肥料(kg/10a)

作 目	作 型	は種時期	農薬使用回数(注1)		化学肥料施用量(注2)	
			慣 行 的 使用回数	5 割 減 使用回数	慣 行 的 施 用 量	5 割 減 施 用 量
だいこん	春まき	2上-5下	10	5	11	5.5
	夏まき	8上-9下	12	6	11	5.5
	冬まき	12上-1下	10	5	11	5.5
かぶ	春まき	2上-5下	9	4	9	4.5
	夏まき	6上-8上	9	4	8	4
	秋まき	8中-10下	8	4	8	4
	冬まき	11上-1下	6	3	16	8
にんじん	夏まき	6下-8下	13	6	16	8
	冬まき	12中-3上	14	7	16	8
ごぼう	春まき	4上-5下	7	3	19	9.5
	秋まき	9上-11下	6	3	22	11
さといも			9	4	20	10
やまのいも			14	7	17	8.5
たまねぎ			16	8	27	13.5
	加工業務用・無マルチ栽培		24	12	30	15
葉しょうが			7	3	15	7.5
はくさい			12	6	27	13.5
こまつな	春まき	2下-5下	12	6	14	7
	夏まき	6上-9上	14	7	10	5
	秋まき	9中-11下	13	6	20	10
	冬まき	12上-2中	10	5	17	8.5
キャベツ	夏まき	6上-8下	13	6	16	8
	秋まき	9上-10中	13	6	24	12
ほうれんそう	春まき	2下-5下	10	5	15	7.5
	夏まき	6上-9上	10	5	16	8
	秋まき	9中-11下	10	5	18	9
	冬まき	12上-2中	8	4	16	8
ねぎ	春まき	2中-4中	26	13	20	10
	秋まき	9中-11中	23	11	39	19.5
	冬まき	1上-2下	28	14	24	12
チンゲンサイ			7	3	15	7.5
えだまめ	露地		10	5	8	4
	トンネル		7	3	9	4.5
	ハウス		8	4	9	4.5

単位：農薬(回)、化学肥料(kg/10a)

作目	作型	は種時期	農薬使用回数(注1)		化学肥料施用量(注2)	
			慣行的 使用回数	5割減 使用回数	慣行的 施用量	5割減 施用量
スイートコーン	露地		9	4	26	13
	トンネル		10	5	28	14
レタス	春どり	10上-12上	5	2	25	12.5
	秋冬どり	8上-9下	7	3	14	7
ブロッコリー	夏まき	7上-9下	14	7	22	11
	冬まき	11下-3上	13	6	19	9.5
ばれいしょ			2	1	8	4
かんしょ	(マルチ栽培)		12	6	2	1
なす	半促成		53	26	56	28
	トンネル早熟		48	24	62	31
	露地		49	24	49	24.5
トマト	促成		54	27	19	9.5
	半促成		30	15	20	10
	露地		30	15	15	7.5
	長期どり		60	30	39	19.5
ミニトマト	促成	(注5)	43	21	38	19
きゅうり	促成		49	24	44	22
	半促成		41	20	33	16.5
	トンネル早熟		31	15	28	14
	抑制		41	20	26	13
	越冬		28	14	28	14
うど			8	4	10	5
カブ			14	7	27	13.5
さやいんげん			9	4	17	8.5
サラダナ			8	4	12	6
すいか			12	6	9	4.5
にら			11	5	33	16.5
リーフレタス			7	3	17	8.5
れんこん			4	2	57	28.5
わけねぎ			15	7	42	21
しゅんぎく	露地トンネル		12	6	17	8.5
	秋まきハウス		13	6	27	13.5

単位：農薬(回)、化学肥料(kg/10a)

作 目	作 型	は種時期	農薬使用回数(注1)		化学肥料施用量(注2)	
			慣 行 的 使用回数	5 割 減 使用回数	慣 行 的 施 用 量	5 割 減 施 用 量
葉だいこん	春まき	2下-5下	10	5	7	3.5
	夏まき	6上-9上	11	5	10	5
みずな	春まき	2下-5下	8	4	13	6.5
	夏まき	6上-9上	8	4	10	5
	秋まき	9中-11下	8	4	17	8.5
	冬まき	12上-2中	6	3	19	9.5
みぶな	春まき	2下-5下	7	3	18	9
	夏まき	6上-9上	8	4	16	8
	秋まき	9中-11下	7	3	17	8.5
	冬まき	12上-2中	7	3	18	9
ルッコラ	春まき	2下-5下	7	3	14	7
	夏まき	6上-9上	9	4	10	5
	秋まき	9中-11下	7	3	21	10.5
	冬まき	12上-2中	5	2	19	9.5
べかな	春まき	2下-5下	9	4	14	7
	夏まき	6上-9上	11	5	10	5
	秋まき	9中-11下	9	4	21	10.5
	冬まき	12上-2中	8	4	19	9.5
のらぼう菜	露地		4	2	25	12.5
	ハウス		6	3	25	12.5
にがうり			6	3	35	17.5
かぼちゃ			20	10	13.7	6.8
しゃくし菜			5	2	13.5	6.7
オクラ			11	5	26.5	13.2
ビーツ	春まき	2下-4上	3	1	12.2	6.1
	秋まき	8上-9下	3	1	13.6	6.8
いちご	(注6)		57	28	30	15
日本なし			45	22	22	11
くり			10	5	11	5.5
ぶどう			18	9	5	2.5
うめ			10	5	16	8
かき			6	3	4	2
ゆず			10	5	21	10.5
すもも			13	6	13	6.5
いちじく			11	5	14	7

単位：農薬（回）、化学肥料（kg/10a）

作 目	作 型	は種時期	農薬使用回数(注1)		化学肥料施用量(注2)	
			慣 行 的 使用回数	5 割 減 使用回数	慣 行 的 施 用 量	5 割 減 施 用 量
キウイフルーツ			15	7	20	10
ブルーベリー			4	2	6	3
かぼす			10	5	19.2	9.6
茶			16	8	39	19.5

注1 農薬の使用回数は、有効成分の延べ使用回数である。

ただし、展着剤の使用は回数に含めない。

2 化学肥料の施用量は、窒素分量である。

3 \* : 5月上旬に移植するもののうち、9月上旬までに収穫できるものは早期栽培とし、それ以外は早植栽培とする。

4 多収性品種は、次のア又はイに該当し、農産物安全課長が指定した以下の品種とする。

ア 産地品種銘柄に指定されており、県平均収量より10%以上多収であることが、県の機関等で実施した調査データにより確認できること。

イ 「需要に応じた米生産の推進に関する要領」の別紙3の第4の3で指定されている多収品種（加工用又は新規需要米用途に限る）。

指定品種：みつひかり、モミロマン

5 ミニトマト（促成）の作型は、8月上旬～9月上旬に定植し、6月下旬まで収穫を行うものとする。

6 イチゴの基準の適用はランナー切り離しからとする。

参考

家畜ふん堆肥の施用量の目安（10a 当たり、堆肥水分は50%換算）

作物名	家畜ふん堆肥			おが屑混合家畜ふん堆肥*			
	牛ふん	豚ふん	鶏ふん	牛ふん	豚ふん	鶏ふん	
水	乾田	0.5t	0.5t	0.4t	0.6t	0.5t	0.5t
稲	半湿田	0.2t	0.2t	0.2t	0.3t	0.3t	0.2t
一般畑作物		0.6t /作	0.6t /作	0.5t /作	0.8t /作	0.7t /作	0.6t /作
野菜	少肥型	0.8t /作	0.8t /作	0.6t /作	1.0t /作	0.9t /作	0.8t /作
	中肥型	1.2t /作	1.2t /作	1.0t /作	1.6t /作	1.5t /作	1.3t /作
	**多肥型	1.7t /作	1.6t /作	1.4t /作	2.2t /作	2.0t /作	1.7t /作
果樹		0.6~1.2t	0.6~1.2t	0.5~1.0t	0.8~1.6t	0.7~1.5t	0.6~1.3t
茶		0.9t	0.9t	0.8t	1.2t	1.1t	0.9t

\* : おがくず混合家畜ふん堆肥とは、おが屑や木屑が容積比で50%前後混合されたものである。また、もみ殻を多量に混合したものもこれに含める。

\*\* : 野菜は基肥施肥量の多少によって分類し、N、K<sub>2</sub>O各10~15kg/10a、20kg/10a前後、25~30kg/10aをそれぞれ少肥型、中肥型、多肥型とした。

一般畑作物：小麦、大麦、大豆、そば

野菜

少肥型：だいこん、かぶ、ごぼう、さといも、やまのいも、こまつな、ほうれんそう、えだまめ、ばれいしょ、かんしょ、すいか、にら、しゅんぎく、べかな、チンゲンサイ、葉だいこん、みずな、みぶな、ルッコラ

中肥型：にんじん、たまねぎ、ねぎ、葉しょうが、はくさい、キャベツ、スイートコーン、レタス、ブロッコリー、なす、トマト、うど、カリフラワー、さやいんげん、サラダナ、れんこん、いちご、わけねぎ、のらぼう菜  
かぼちゃ

多肥型：きゅうり

果樹：日本なし、くり、ぶどう、うめ、かき、ゆず、すもも、いちじく、キウイフルーツ、ブルーベリー、かぼす

(野菜については、「主要農作物施肥基準」(平成25年3月 埼玉県農林部農業支援課)の施肥量を参考に分類した。)